



愛の手で あなたをつつむ 被害者支援

会報 ふくしまの空

発行 社団法人ふくしま被害者支援センター
 〒960-8002 福島市森合町 14-6 第三福島トヨタビル 2F
 事務局 TEL&FAX 024-533-7830

「被害者の良き隣人でありたい」

(社)ふくしま被害者支援センター
 理事 金子 興 宏
 (財団法人福島県自動車会議所会長)



ふくしま被害者支援センターが発足して、3年余りが経ち、年間約120件を超える相談や支援を行ってきています。当センターの設立のための準備段階から関わってきた者の一人として、それなりの成果が上がってきている様子を知り、大変うれしく思っているところです。

私は、自動車関連の業界団体や社会福祉関係の団体にも関わっておりますが、人が困ったときにその内容に応じて、相談をしたり、教示を求めたりできる機関や窓口がある事は、大きな救いになるものと考えております。

ある日突然、理不尽な犯罪や交通事故に巻き込まれた被害者やその家族・遺族の心情として、経験したこともない大きな恐怖や痛みがあっただろう、自分の命が奪われ絶えるときどんなにか激しい絶望感に襲われただろうと思うと、癒すことのできない大きな痛みと辛さを感じないわけにはいかないのであります。

ところで、県内においては、犯罪や交通事故は減少の傾向にあるとは聞いておりますが、本年は9月から10月にかけて、複数の死者が出る死亡事故が相次ぎ、“死亡事故多発全県警報”が発令されるなど、残念ながら悲惨な被害者の発生が続いています。それから1件1件の事故に悲惨な被害者や遺族が存在していることを認識し、被害者等が早い段階から適切な支援を受けることができるよう祈らずには居られません。

一方、被害者や遺族に対する支援の輪は、決して自然に広がるものではありません。被害者等がつまらない噂話に心惑わされ、無配慮な励ましに心痛めるケースは後を絶ちません。こうした二次被害を防ぐには、地域の方々にこれまで以上の理解と協力が必要であると思います。そのためには、あらゆる機会、あらゆる方法を活用して地域の方々に被害者の心情の理解を得る努力が必要であると考えます。

ふくしま被害者支援センター関係者の一層の努力と、県民の皆様一人一人が被害者の心に寄り添い、被害者の気持ちになって支える、良き隣人となっていきたいと願っております。

平成22年度 理事会及び総会の開催

去る6月3日(木)、本年度第1回通常総会を福島市「ホテル福島グリーンパレス」において開催いたしました。総会では、

- 役員の選任
- 平成21年度事業報告
- 平成21年度収支決算報告
- 賛助会員の承認
- 犯罪被害者相談員の任用

等の議案について活発なご意見を頂き、全会一致で承認可決されました。



～通常総会の開催状況～

【事業報告の概要】

平成21年度相談受理状況

相 談 種 別	相談事案内容(件・人)						計	
	犯罪被害者関係		交通事故関係		その他			
	件	人	件	人	件	人	件	人
電 話 相 談	26	17	18	17	26	23	70	57
面 接 相 談	4	4	8	7	4	4	16	15
直接的支援	14	4	20	6	0	0	34	10
計	44	25	46	30	30	27	120	82

*その他＝家庭・金銭問題 *犯罪被害＝殺人・傷害・詐欺・DVが含まれています。

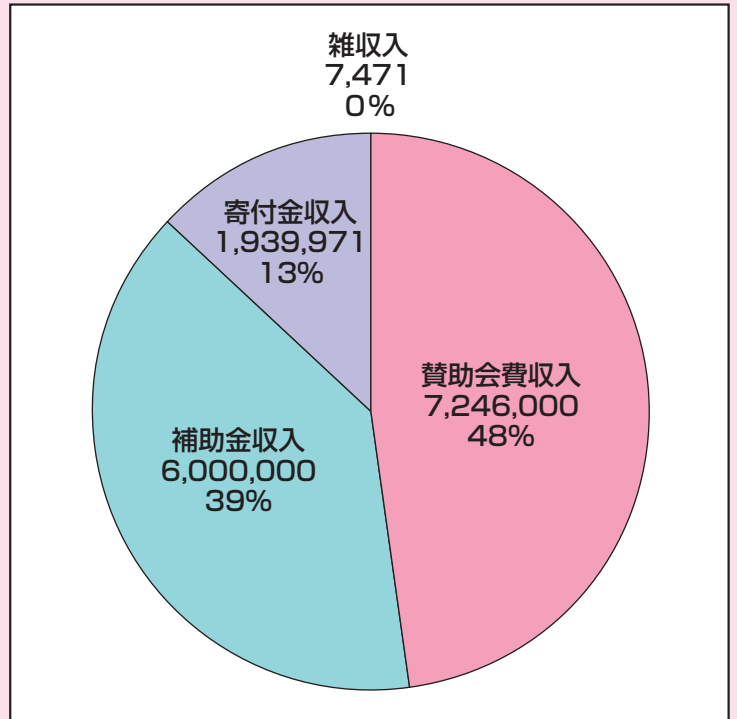
相談等の特徴

電話相談・面接相談の男女別状況は、男性が59.6%、女性が40.4%で男性が6割弱を占めています。年代別では、20歳代が7.0%、30歳代15.8%、40歳代24.6%、50歳代7.0%、60歳代15.8%、70歳代3.5%となっており、30歳代、40歳代及び60歳代で56.2%相談が寄せられています。また、居住方部別では、県北方部35.1%、県中・県南方部29.8%、会津方部5.3%、いわき方部5.3%、及び相双方部7.0%となっており、中通り方部が多いが、県中・県南方部及び相双方部が増加してきています。

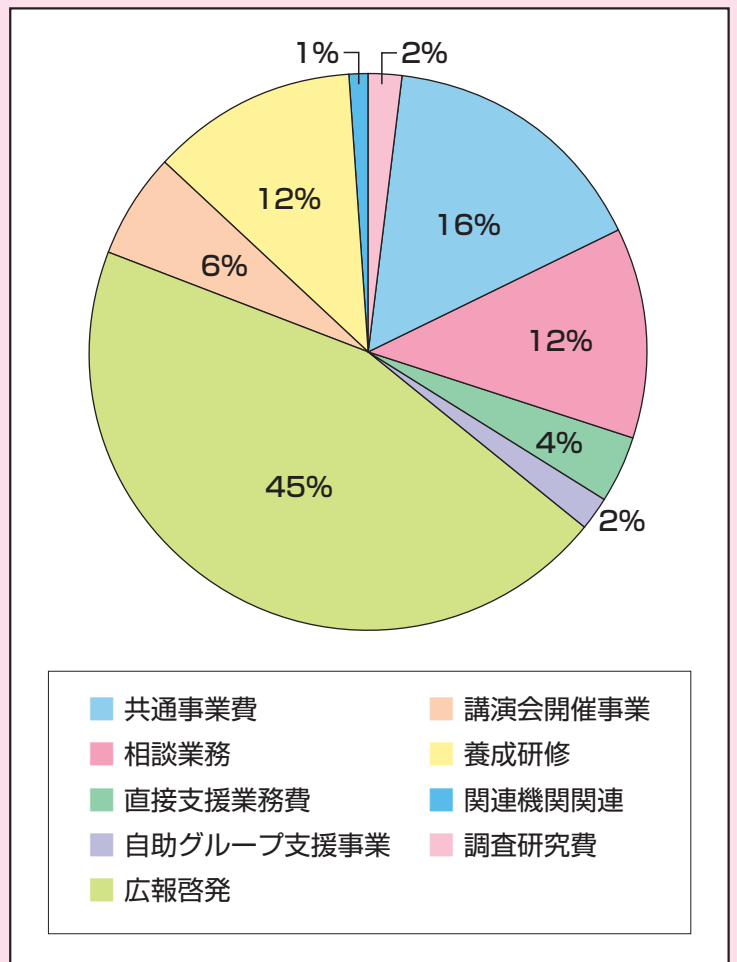
直接的支援の特徴としては、これまでも継続して支援を行ってきましたが、交通事故のご遺族や犯罪被害者のほか、昨年3月10日に犯罪被害者等早期援助団体の指定を受けたことによる、警察からの支援要請を受けて支援活動を行ったもの2件、犯罪被害者等給付金申請補助事務取扱が1件ありました。また、そのほか警察との連携による支援活動3件等合わせて犯罪被害関係が14件(4人)、交通事故関係が20件(6人)、合計34件(10人)の直接的支援活動を行っています。

【収支決算報告】

事業活動収入(円)	
補助金収入	6,000,000
賛助会費	7,246,000
寄付金収入	1,939,971
雑収入	7,471
計	15,193,442



事業費支出(円)	
共通事業費	1,668,199
相談業務	1,299,539
直接支援	440,796
自助グループ支援事業	196,288
広報・啓発	4,862,295
講演会開催事業	643,522
養成・研修	1,275,429
関連機関関連	157,395
調査研究費	161,630
計	10,705,093



管理費支出(円)	
人件費	2,760,594
管理事務費	2,659,810
計	5,420,404

収支差額(円)	
事業活動収入計	15,193,442
事業活動支出計	16,125,497
投資活動支出計	763,235
前期繰越収支差額	20,683,003
次期繰越収支差額	18,987,713

交通事故被害者遺族の手記

平成21年6月から開催している「自助グループ」活動に参加しておられます交通事故被害者遺族の方のご厚意により、手記を掲載させていただきました。

本稿は、内閣府の基本計画策定・推進専門委員等会議において、被害者等の声を政府に直接伝えるための資料として全国の犯罪被害者等から投稿された手記の一つであり、犯罪被害者等の受ける苦しみや支援センターとの関わりが、非常に良く詳細に伝わってくる内容です。

なお、本稿を含め全国の犯罪被害者等から投稿されました手記につきましては、「犯罪被害者の声第4号」として発刊されております。

「多くの方に支えられて」

(社)ふくしま被害者支援センター

岡 崎 照 子

私が、ふくしま被害者支援センターに初めて伺ったのは、昨年7月のことでした。私の長女は、5年前の2005年8月交通事故で死亡いたしました。中学3年生14歳でした。

私は、私と同じように子どもを交通事故で亡くした人との交流を全く持たないまま、過ごしておりました。事故から一年が経過しても、思考は混乱したままで、生きることの虚しさは、ますます強くなるように感じ、どのように闘えばいいのかも分からないまま、民事裁判をし、それも既に終わっておりました。

昨年6月、ある方を通じて、交通事故で息子さんを亡くされた福島市の方の連絡先を教えていただくことができました。さっそく連絡をいたしました。

子どもを失ったという同じ立場で、共感しあえることがたくさんありました。

そして、その方から、被害者支援センターで自助グループの集まりがあるので、一緒に参加してみませんか？とお話をいただき、私も参加させていただくことにしました。

子どもを失った哀しみは、消えることはありません。ほとんどの哀しみは時間が解決してくれると言われ、私もそうだろうと思ってきましたが、子どもを亡くした哀しみは、時間が経てば軽減されるというものではないことを実感しました。時間が経つほどに、ますます哀しみは深く重く、心の奥底に沈んでいくような気さえしました。

未来に瞳を輝かせ、精一杯努力していた娘を失った嘆き、幸せだった家庭の平穏が一瞬にして壊されたことへの怒り、娘を救うことができなかった後悔。いくら考えても答えなど出るはずもないのに、それでも考え続け、ただ涙が流れるばかりでした。

しかし、現実では、長女を失う以前と変わらぬように日常生活を送らなければなりません。そんな時に、自助グループに参加したのでした。

子どもを失ったという同じ状況にある人と話し合うことは、生々しい事故の様子を思い出すことにもなりますが、それでも意義は大きいと思いました。他の方の話される哀しさや悔しさに共感し、一緒に涙を流し、そうすることによって、今はいない娘への思いを新たに、帰路に着くことができました。

どうしようもない孤立感と閉塞感に押しつぶされそうな時、共感しあえる人がいる、他の人には理解してもらえないと思っていたことを話す場所があると思えることで、一人ではないという安心感を持ちました。

また、被害者支援センターに伺ってすぐに、私たちは娘を『生命のメッセージ展』に参加させることに決めました。福島市での『生命のメッセージ展』開催は、被害者支援センターの皆さん、そして多くの方々のご協力によって、たいへん素晴らしく意義深いものとなり、大成功を収めました。娘もととても喜んでるように思いました。

被害者支援センターの皆さんは、『話をしたくなったら、いつでも大丈夫だからね。』と言って下さいます。そして、いつも私の心と体を気遣って下さいます。その言葉が、どんなにありがたく嬉しいことでしょう。皆さんの優しさに励ましていただきながら、今日も何とか頑張ろうと思って生きています。

被害者支援センターの皆さんは、いつでも私たちを暖かく迎えて下さいます。これからも私たちのように孤立して、誰にも相談できずに悩んでいる人たちの、大きな支えになって下さると思います。

私は、この出会いを大切に、これからお世話にならせていただくつもりであります。

お手数をおかけしますが、今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

全国被害者フォーラム2010に参加して

日時：平成22年10月1日(金)10:00～17:30

場所：東京都港区「日本消防会館」

目的：犯罪被害者等の置かれている現状と支援の必要性についての、支援者を対象とする広報啓発

全国的な研修会は、現在の被害者支援の状況について学ぶことができる機会でもあります。今回は、「今年で5年の計画期間が終了する犯罪被害者等基本計画の進捗状況及びこれに対する評価により、来年度から新たに第二次基本計画が策定されること」「山形、宮城、神奈川の各県では、犯罪被害者等支援条例を制定したこと」「愛知県では、相談をワンストップで解決できるように、ハートフルステーション・あいちという相談拠点(モデル事業)を設置したこと」等を学びました。私が研修を受ける際最も印象を受けるのは、被害者の声ですが、今回も、夫を殺害された被害者遺族の話が印象に残りました。加害者は、8年の実刑となり、この11月にも出所するとのこと。「彼を支援するグループもあり、彼は人生をやり直すこともできるだろう。加害者には、希望があり、未来があるのに、私は、職を失い、金もなく、未来もない。周りの人のことを思うと自殺もできない。支援センターの自助グループに入り、何とか生きている」という彼女の言葉に支援の大切さを感じました。

Y 犯罪被害者直接支援員・男性

全国被害者支援ネットワーク秋期全国研修に参加して

日時：平成22年10月2日(土)9:30～16:30

10月3日(日)9:30～13:45

場所：東京都中央区

「TKK東京駅日本橋ビジネスセンター」

この度、研修会参加の機会を頂き「面接相談の技術・代理傍聴の報告」の会に参加いたしました。

プロセスとしては、電話相談～面接相談そして被害の重大性などから被害者の依頼による代理傍聴ということがあります。私共の支援センターは、設立から年数も浅いことから、私は代理傍聴を経験していません。

今回は主に関西の方々から実績をふまえた意見や事例が数多く出されました。具体的には被害者が疲弊している時、裁判でしかわからない時、性的被害を受けた時などのようです。

そして、実際に傍聴の場に臨む際の手順や心得、傍聴後の報告の仕方、記録等についても参考になることが沢山ありました。

私共も日々の電話相談と併せて今後の支援に役立てるよう更に努めて参りたいと思います。

E 犯罪被害者直接支援員・女性

県内初の「被害者支援出前講座」を西郷村文化センターで開催



～出前講座の講演～

平成22年度の重点事業のひとつとして「市町村への出前講座の実施」を掲げ、本年4月、県内59市町村に対し「被害者支援出前講座」の開催を呼びかけてまいりましたところ、西郷村からの要請があり、西郷文化センターにおいて、第1回目の被害者支援出前講座を開催することができました。

西郷村では、9月26日(日)に開催した「西郷村地域安全の日」の行事の一環として講座を開催したものです。

これまでの経緯を紹介しますと、西郷村では、平成8年12月に、住民が豊かで健やかな生活が営める健全な環境の整備のため、村民総ぐるみの自主的な地域安全運動を推進しようという提案により、「西郷村地域安全条例」が制定され、活動が続けられてきました。平成22年4月、村では隣接する白河市及び下郷町の3市町村生活圏域内での犯罪や事故等の防止活動の連携を高めるため「地域の安全に関する市町村協定」を締結しました。この協定を契機に、地域の安心・安全を推進する気運を高める記念日として「地域安全の日」を定めようとする提案があり、これまで行われてきた「西郷村地域安全推進村民退会」を継承する形で、毎年9月の最終日曜日にイベントを開催することとなりました。

本講座は、当センター廣木康二専務理事が講師となり、交通事故被害関係DVD上映を交え、交通事故被害者・その家族の現状、二次的被害、周囲の者の対応などについて、約70分にわたり講演を行いました。

参加者は、交通事故という身近な問題であることから真剣に聞き入っていました。最後に参加者を代表して西郷村地域安全推進協議会長の長谷部さんから「被害者支援への思い」についてのお話があり、盛況の内に県内初の「被害者支援出前講座」を終了しました。

「被害者支援出前講座」は

- 当センターの存在と活動内容を、広く県民の間に浸透させる
- 犯罪被害者等を理解し、支えあう地域の環境づくりをすすめる
- 地域の一人一人に、被害者支援への協力を呼びかける

ことを目指しています。

犯罪や交通事故の被害者、その家族・遺族の方々の被害の回復と軽減を図るための「支援の輪」を県内各市町村に根付かせ、広げていくためには、あなたの協力が必要です。

是非、あなたの住む地域でも出前講座を開催させてください。

三者合同による「被害支援の日」街頭キャンペーン ～福島大学吹奏楽団がキャンペーンを盛り上げる～

去る10月3日午後1時30分から、JR福島駅東口広場において、福島県警察本部、福島署との三者合同による「犯罪被害者の日」街頭キャンペーン活動を行いました。

当日は、日曜日で快晴であったことから人通りも多く30名の活動員も積極的に通行人に呼びかけを行い、また、昨年に引き続き福島大学吹奏楽団による演奏が行われたことから、多くの聴衆が立ち止まり、素晴らしい演奏に聴き入るなど街頭キャンペーンは大いに盛り上がりました。

このキャンペーン活動は、犯罪被害者給付金制度10周年記念シンポジウム開催を記念して、10月3日を「犯罪被害者支援の日」と定め、全国的にキャンペーン活動を行っています。今年は、「オウム真理教犯罪被害給付金制度」の給付金の申請期限が、本年12月17日であることから、この周知を図るための広報活動も併せて行いました。

約2時間にわたるキャンペーン活動の中で、設置した募金箱には、総額で24,575円の浄財が寄せられました。ありがとうございました。

当センターは、平成19年に設立され、翌平成20年12月に社団法人として、更に平成21年3月に福島県公安委員会から「犯罪被害者等早期援助団体」としての指定を受けた団体であります。その存在すら知らない方々がおられます。

今回のキャンペーン活動は、「被害者支援」の必要性、重要性と当センターの存在を県民の皆様を知って頂くための活動の一環として行いました。

まだまだ県民の皆様には認知度の低い当センターではありますが、犯罪や交通事故の被害者、その家族・遺族の方々の被害の回復と軽減を図るための活動を一步一步進めて参ります。

県民の皆様一人ひとりの「被害者支援」に対するご理解とご協力をお願いします。



『生命のメッセージ展inふくしま』 来場者の感想

前号に続き、「生命のメッセージ展inふくしま(21年11月)」来場者の感想をご紹介します。

今回の生命のメッセージ展を見て、罪なき人々が残酷な人々によって尊い生命を奪われた遺族の犯人に対する怒りが伝わったと思います。また、裁判等の結果を見ると、本当にこれで良いのかと思う。遺族は大切な人を失ったわけだから、裁判官はもっと遺族の気持ちになって、分かってほしいなと思いました。今回はありがとうございました。

一緒に来た3人の子供達も、生命の大切さを改めて感じてくれたようです。「車に気を付けてね!」の毎日の一言よりも被害者のメッセージを読んで、心に響いたものがあったようです。

私達は命があって毎日生かされている。運命では片付けることでなく、一人ひとりが運転する人、歩行者も命のメッセージを見て、ジーンとするものがありました。ありがとうございました。

初めてメッセージ展を見させていただきました。何か、みんなの顔から、体から、もっと生きたいと言う声が、聞こえてきそうでした。家族の切ない声が聞こえてきそうでした。これからは、赤い糸が、交通事故等、一つでも少なくしてくれればと思います。被害者のご冥福をお祈りいたします。

この様な催しをテレビで見て来て見ました。この頃の事件、事故には目を背きたくなる様な事が多すぎます。私も昨年身内に事件で、甥子の奥さんが殺され、あの時、新聞記事を見た時には足が震えてしまい、なんとむごい理不尽な事が人ごとの様に思えない程の悲しみを感じました。又こんな催しを多くの人に見てほしいと思っています。

奪われた命ほど辛く、遺族の人にとっては苦しいことと改めて考えさせられました。今こうして生きていることただそれだけで幸せなことなのかもしれませんね。法律や刑に対する怒りも尤ものことだと思います。怒りや悲しみ憤り色んな思いがあると思います。改めて命の大切さを考えてみたいと思いました。

もっと生きたかったろうに。本人の無念さを思う。家族の無念さを思う。これは、避けることができなかったのだろうか。理不尽に生命の奪われることがない世の中へどうしたら近づけるだろうか。重い課題を胸に刻む。生命のメッセージ展へ関わった全てのみなさんへ ありがとうございます。世界中の友人のみなさんへ 生きて 生きて 生きて 生きて 生きて きっとかならず、生きてくれてありがとうございますと言われるから。

痛ましい事実を正面から受け止めるか。直視するのが切なくてあえて関心を持たないようにするか。自分でもどうしてよいのか分からない。でも、今も尊い生命が犠牲になっているのは、本当のことである。私の周りにふりかからないよう祈るしかないのだろうか。

テレビを観てこちらへ来て見ました。たくさんの遺族の方々はこれからも大変だと思いますが、負けないで生きてください。自分も弟を亡くしておりまた思い出しました。いつも必ず心の中で生きていると思います。そして皆さんを見て守ってくれると思いますよ。この企画はまたやってほしいと思います。

私には家族がいます。毎日、元気で家族と暮らすことが当たり前のように思っていたのですが、今日の展示会を見て、不幸にも家族を亡くされた方々の無念さを感じました。いざ、自分が同様に遺族となってしまうたら考えると…何も浮かんできません。少しでも被害者の気持ちが満たされる様、社会整備を進めて欲しいと思います。

私にも、小4、2、4才3才の子供が4人いますが、まさか、自分の子供が事故で天国に行ってしまうなんて事は夢にも考えることができません。今回色々見て、いつ自分の身にふりかかるかもしれない、人事ではないだろうという事を強く感じました。交通事故で亡くなるなんて悲惨な事がなくなる事を心から思います。

「いのちのミュージアム」 開場記念式典に参加して

(社)ふくしま被害者支援センター
事務局長 橋本 栄一



～入館者を迎えるメッセージボード～



～全国へ旅立つ「支援の輪」の風船～

台風の影響が残る9月25日の早朝、曇り空の「ふくしまの空」を眺めながら、廣木専務理事と共に新幹線に乗り込みました。

上京の目的は、当県内でも、県文化センター(平成21年11月)や郡山市・いわき市(平成22年2月)で開催した「生命のメッセージ展」の主催者が、常設展示会場をオープンさせるとのことで、その式典に出席するためです。

東京都日野市の会場には、午前10時ころに着きました。

心配された天候も、「いのちのミュージアム」のオープンを祝うかのように、会場となった日野市立百草台(もぐさだい)コミュニティセンター(旧百草台小学校)庭の木々の間から木漏れ日がさすほどに回復しました。

3階にある展示会場に向かう途中、階段踊り場に設置された“「いのち」の架け橋「いのちのミュージアム」”のメッセージボードが私達を迎えてくれました。

展示会場には、「生命のメッセージ展」の常設展、「いろいろのワークショップ」、「いのちのライブラリー」などが展示されています。また、9月25日、26日の開館企画として、「写真展：このいのちを感じて」、「うまれてきてくれてありがとう～忘れないこの笑顔～」など盛りだくさんの展示品が並べられていました。

式典会場となった体育館は色とりどりに飾られ、日野市長をはじめ日本財団、トヨタ自動車、日野自動車、地元自治会など多くの方々の参列のもと、記念式典が始まりました。

オープン記念マラソンランナーのゴールを皮切りに、主催者鈴木恭子代表のあいさつ、来賓の日野市長、トヨタ自動車等の方々の祝辞、全国140名余りのメッセンジャーの紹介の後、タンポポの種を付けた色とりどりの風船を手に参列者全員が校庭に出ました。

「広がれ！広がれ！支援の輪」と大空に向かい全員で唱和した後、赤、青、黄、緑などの風船を一斉に空高く放ちました。

風船は、紺碧の空に吸い込まれ、「支援の輪」を百草台コミュニティセンターから日本全域に広げるために旅立ちました。

この風船が、私達の住む福島県にも立ち寄り、必ず「支援の輪の種」を根付かせてくれることを信じて、「広がれ！広がれ！支援の輪」と大声で叫びました。

なお、「いのちのミュージアム」の開館日は、毎週、金曜日、土曜日及び日曜日の午前10時から午後5時(最終入館時間午後4時)までとなります。

上京された折には、是非お立ち寄り下さい。

～「いのちのミュージアム」～

〒191-0033 東京都日野市百草999 日野市立百草台コミュニティセンター 3階

TEL/FAX 048-225-6168 京王線「高幡不動」駅下車 バス又はタクシー利用

南相馬方部	金成 匡以 木幡 寿夫 小林 光吉 武田 啓市 亀井 勝美 金成 匡以 木幡 寿夫 小林 光吉 武田 啓市
亀井 勝美	
双葉方部	橋本 輝雄 渡辺 正巳 加藤 直樹 齋藤 吏 穂積 恒安
相馬方部	山下登美枝 竹中 淳一 県外 松原 文代 歌川 隆之
法人・団体	
福島方部	
福島県軽自動車協会 富士印刷(有) 福島経済同友会 (社)福島県バス協会 福島テレビ(株) 福島県自動車販売店協会 川俣地区交通安全協会	(社)福島県警友会 福島県二輪車安全普及協会 福島県レンタカー協会 (株)日産サテリオ福島 (株)ダイユーエイト 福島県商工会連合会 (助)福島県自動車会議所 川俣地区安全運転管理者協会 ブレインハート法律事務所 (社)福島県交通安全協会 文化設備工業(株) 県警察機動捜査隊 福島信用金庫 福島県自動車事業協同組合 福島県経営者協会連合会 (社)福島県医師会 (株)アトリエ・オレンジ (助)暴力団根絶福島県民会議 東北電力(株)福島支店 (社)福島県防犯協会連合会 福島民友新聞社 福島県民共済生活協同組合 安全運転管理川俣事業主会 (社)福島県警備業協会
福島北地区	
フクシマフーズ(株) 協同組合県北地区浄化槽管理協会 陽光社印刷(株) (株)マルセイ (有)吉川屋 (株)サンレディ	福興産業株式会社 JA福島中央会 渋谷建設(株) 仙台コココーラボトリング(株)福島営業所 (有)桜井運送 斎藤運輸(株) 飯坂自動車学校 (有)後藤設備 マエサン東北農材(株) (株)吉田運輸 (株)紺野工務所 トーアエイヨー(株) (有)カーサービスこんの 寿建設(株) (株)ティーエムシー (社)福島県トラック協会 (株)福一屋 穴原温泉いずみ屋 (株)アポロガス (株)倉島商店 (株)ひらい
伊達方部	
伊達物産(株)	斎藤電建工業(株) 医療法人敬仁会中野病院 日野金属産業(株)
二本松方部	
にいどの運送(有) 高林寺	(株)マルコ物流 (株)丸や運送 (株)アスク 昭和タクシー(株) (有)昭和自動車整備工場 二本松地区警友会
郡山方部	
(株)ヨークベニマル 郡山地区安全運転管理者協会	(株)栄楽館ホテル華の湯 福島県精神科病院協会 郡山地区交通安全協会 医療法人慈恵会すがのクリニック 県南祭礼商業協議会 ゼビオ(株) 安全運転管理郡山事業主会
郡山北方部	
安全運転管理本宮事業主会 東和(株)	南達地方暴力排除推進協議会 本宮地区安全運転管理者協会 本宮地区防犯協会連合会 本宮地区金融防犯協会 西部自動車(株) 本宮地区出身警察官父兄会 本宮地区交通安全協会 森(株) (株)ナックス
須賀川方部	
福陽ガス(株)	(株)釜屋 神田産業(株) (株)南部自動車学校 須賀川地区警察官友の会 須賀川信用金庫 須賀川市役所課長会
白河方部	
白河地区交通安全協会 福島県自家用自動車協会白河支部	白河信用金庫 安全運転管理白河事業主会 こちや自動車工業(株) 福菱工業(株) 交通遺児激励基金運営委員会 永野土木建設(株) (株)ヤマシロ 白河地区安全運転管理者協会 (株)南湖自動車学校
石川方部	
	(有)ホテル松多屋
棚倉方部	
森本建設(株) 日本精工(株)福島工場	東白商事株式会社 (株)シーズオート 鈴木運送(株) 八溝マテリアル(株) (株)星電設 (株)シーズ
田村方部	
小野地区交通安全協会	みどり商事(株) (株)清水商店 福浜大一建設(株)三春支社 田村地区警察官友の会 (有)やわらぎ乃湯 小野地区警友会
会津若松方部	
(有)瀬潮会計事務所 吉原産業(株) (株)ワールド ジャンボ喜多方店 会津通運(株) 丸果会津青果(株) (株)栄町オサダ (社)会津医師会 医療法人二瓶眼科医院 会津美里地区暴力団排除推進連絡会	(株)NIPPO若松合材工場 (株)会津ビルサービス (有)浩和商事 マルハン会津若松店 ワールド喜多方店 医療法人品晴会 遠藤歯科医院 会津ゼネラル(株) 会津美里地区金融防犯協会 扇町渡部小児科アレルギー科医院 (株)ナデイス (株)小野屋漆器店 ダイナム会津若松店 パーラーさくらんぼ 北陽商事 (有)芝草 (助)竹田総合病院 東北ヤマキ電気(株) 会津商工信用組合 会津美里地区防犯協会 医)健真会山口皮膚科医院 会津美里地区警察官友の会 なるせとみこレディスクリニック (有)日石商会 (株)のぶいち商会 (有)アヴァンティ ダイナム福島塩川店 光塗装(株) 高田厚生病院 会津薬品産業(株) 会津オリンパス(株) 会津自動車工業(株)
猪苗代方部	
猪苗代地区交通安全協会 (有)阿部重郎商店	野口英世記念館 (株)オーブス磐梯 (有)クリーンセンター遠藤 安全運転管理猪苗代地区事業主会 磐梯清水平開発(株) 安部建設(株) 猪苗代地区安全運転管理者協会 栄川酒造(株) (有)吉田工業所
会津坂下方部	
会津坂下地区交通安全協会他	柳津測量設計(株) 会津坂下金融団 JA会津みどり総務部
南会津方部	
(株)荒海チップ	(有)つるや商店 (有)二瓶建材店 (株)菊地商会 みなみやま観光(株) 南会津自家用自動車組合 南会津警察署警察官友の会
いわき中央方部	
平中央自動車学校 いわき中央地区実行委員会	パチンコからしま パーラージョイパーク高坂店 安養寺 常磐共同ガス(株) 盛英自動車(株) 開発会
いわき東方部	
いわき東警察官友の会 第一三共プロファーマ(株)小名浜工場 いわき東署地域1 係水上派出所一同 (株)日本海水	(株)みよ乃杜 いわき小名浜ロータリークラブ いわき東地区みかじめ料排除協議会 社団医療法人容雅会中村病院 (株)五輪 福浜大一建設(株) 小名浜製鍊(株)小名浜製鍊所 (株)大橋 磐城運送(株)小名浜支店 東邦亜鉛(株)小名浜製鍊所 日本化成(株)小名浜工場 堺化学工業(株)小名浜事業所
いわき南方部	
	常磐共同火力(株)勿来発電所 (株)マルト商事 岩電機工事(株)
南相馬方部	
原町港湾運送(株) 大洋建設(株) (株)福建コンサルタント 南相馬警察署陸会	伊藤冷機工業(株) あぶくま信用金庫 後藤建設工業(株) (有)西武商事パチンコ西武1 東北サッシ工業(株) (株)菊池製作所 (有)桜井自動車商会 庄司建設工業(株) (有)西武商事パチンコ西武2 葵産業(株) 丸三製紙(株) 日本デルモンテ(株)福島工場 東北建設(株)
双葉方部	
(株)倉仲 横山建設(株)	福島県浪江自家用自動車組合 (株)東芝福島第一原子力作業所 (株)アトックス福島第二事業所 (株)つばめエイジェンシー (株)阪和 日立GEニュークリアエナジー(株) 東電工業(株) (株)コスモさくら警備保障 双葉署親睦会
相馬方部	
	(有)高塚自動車
県外	
	(株)サンケイシステム広告社 東日本旅客鉄道(株)総務部総務グループ

愛の手で あなたをつつむ 被害者支援

「犯罪被害者になるって どういことだろう……」

あなたやあなたのご家族、親しい方々が
犯罪や交通事故の被害者になったら
あなたは どうしますか？

(社)ふくしま被害者 支援センターでは

- ◇電話相談・面接相談を行っています。
- ◇裁判所・警察・病院等への付き添いをします。
- ◇犯罪被害者等給付金の申請のアドバイスを行います。
- ◇弁護士会等の関係機関、団体と連携した支援を行います。
- ◇被害者支援の幅広い広報・啓発活動を行っています。
- ◇被害者同士の交流の場（自助グループ）を提供しています。

賛助会員募集中

当センターは、皆様の会費により運営されています。

年 会 費

- 個 人…1口 2,000円より
- 法人・団体…1口 10,000円より

福島県公安委員会指定「犯罪被害者等早期援助団体」
(社)ふくしま被害者支援センター

〒960-8002 福島市森合町14-6 第二福島トヨタビル2F
(福島中央郵便局向かい) TEL/FAX 024-533-7830

※なお、「ご寄付」については、金額は問いません。

(社)ふくしま被害者 支援センターの活動

相談・支援受付時間

月曜日～金曜日(午前10時～午後4時)
祝祭日、年末年始を除きます。

※面接相談・直接的支援は要予約

相談は無料です。秘密は厳守します。

相談電話 024-533-9600

◆編集後記◆

11月25日(木)から12月1日(水)までの一週間は、地域の皆様一人一人が被害者やそのご家族・ご遺族の方々に何が出来るかを考える「全国被害者週間」です。

被害者の方々が立ち直るためには、どうしても周囲の皆様の温かい手助けが必要です。

私たちは、「全国被害者週間」の期間中、こうした被害者やそのご家族・ご遺族の方々の被害の回復と軽減を促進させるための支援活動に必要な経費を確保し、「全国被害者支援基金」設立のため、全国一斉の街頭募金活動を行いました。

その結果、浄財26,579円が寄せられました。

県民の皆様のご協力に心より感謝を申し上げますとともに、今後とも、当支援センターへの温かいご理解とご支援をお願いいたします。